

6 答案を作成する

作文・小論文を書くために必要な基礎知識はひととおり揃いました。ここからは実際に原稿を作成していきます。

◎ 6・1. 答案用紙に書く前に

いきなり原稿用紙に書くのは避けましょう。書いている最中に自分でも混乱したり、結論と具体例がかみ合わなくなったりするからです。また、書こうと思っていたことを書き忘れることもあるからです。

もちろん、いくらでも書き直しが可能な状況なら、それでも構いません。試行錯誤しながら書くのも、良い文章を書く方法の1つです。しかし、高校入試の作文・小論文では、時間も文字数も制限があります。したがって、何度も書き直すことはできません。

つまり、原稿用紙に書き始めてからは、やり直しがきかないのです。書き終わって気付いてみたら、段落の構成がめちゃくちゃだった……。1段落をまるまる書き直している最中に試験終了となり、指定字数に届かない状態で提出……。こんな失敗談もよく耳にします。

こうした失敗に共通する原因があります。それは、「考えながら書いている」または「書きながら考えている」ということです。ただの思いつきで根拠のない主張を書いたり、書いて

ている途中で新たに考えついたことを書き加えたりしているのです。このような書き方では、まず間違いなく失敗に終わります。

したがって、「考える」作業と「書く」作業は分けて順に進めるのが失敗を防ぐ書き方です。十分な下準備をして原稿を書き始めましょう。

◎ 6・2. 答案作成の手順

それでは、下準備の手順について紹介していきます。次の5つのステップで進めていきます。

- ステップ1…問われていることを読み取る
- ステップ2…ブレインストーミングをする
- ステップ3…設計図をつくる
- ステップ4…答案用紙に書く
- ステップ5…答案を見直してミスを修正する

1から3は「考える作業」、4は「書く作業」、5は「最終チェック作業」です。

「考えるから書く」という流れになります。「考える作業」とは、「メモをとる」ということで、「この段階でのやり直しは可能です。」

では、各ステップについて詳しく見ていきましょう。